

信州大教育 林 隆子

目的 現在、私たちの日常生活では、生活様式の変化、服装の変化にともない「結縛」という行為が行われなくなりつつある。特に、和服から洋服への着衣の転換ならびに既製服の利用は、衣服調達のために必要であった縫製や服装を整えるための基本的な技術である「結び」を必要としなくなっている。人にとって重要な生活技術である「結び」の被服に関わる現状を把握し、その意味について考察する。

方法 15歳～80歳の男女を対象として、日常生活における「結び」についてのアンケート調査を行った。今回は、主として服装を整えるために日常結んでいると思われる20項目ならびに日常よく結ぶ「結び方」を中心として、性別、年齢グループ別にクロス集計した結果に基づき検討した。

結果 日常生活で服装を整えるためによく結んでいるのは、高校生、大学生の男子は、スニーカーの紐で、女子は、髪の毛をリボンで結ぶ人が最も多かった。しかし、それらの結びは、高年齢になるに従ってその割合は減少する。25歳～59歳についてみると、男子は、約80%がほとんど毎日ネクタイを結んでおり、女子は、エプロンの紐を結んでいる人の割合が多かった。洋服の脱ぎ着に必要な結びは、ときどき結ぶという回答が多く、全体にあまり行っていない。しかし、高校生、大学生にはよく結んでいると回答した人が比較的多く、スエットなどスポーツ用パンツのウエストの紐を結んでいることがわかった。「結び方」については、いずれの年齢、男女とも「蝶結び」を最も多く結んでいるようで、実用的なものから、装飾的なものまで、広く用いられている。